

吊られ笑い

鈴木 優人 (すずき ゆうと) ・会社員
おどおどした、情けない感じ。きつと切れたらヤバイ系

松村 忠 (まつむら ただし) ・ヤクザ
チンピラっぽく。根はやさしい。きつと犬とか猫とか拾ってる

青木 満江 (あおき みつえ) ・活動家
融通の利かない委員長タイプ。きつとどこか脆い人。

宮川 直美 (みやかわ なおみ) ・自営業
礼儀正しいが、そこが胡散臭い。きつと腹黒い

雨宮 輝義 (あまみや てるよし) ・執行人
よくある声の大きな看守。きつと実はいい人。

四つの輪になったロープ。その下に四つの箱。

囚人及び看守の五人。
舞台面、四つの箱の全面（雨宮は宮川の左隣）に並びスポットを浴びている。

ME

鈴木 210X年！行き過ぎた法治とモラルの過激化によって、犯罪者は容易に死刑にされるようになってしまった！

松村 どのような理由であれ殺人は死刑！放火も死刑！強姦も死刑！詐欺も死刑！

青木 百年前と比べて簡単に死刑は執行される！

宮川 そんな中、政府は新たな死刑制度を設けることにした！

雨宮 その制度とは――

――集団死刑制度！！

鈴木 処刑番号1番。鈴木 優人 役 ○○○○（役者の名前）！

松村 処刑番号2番。松村 忠 役 ●●●●（役者の名前）！

青木 処刑番号3番。青木 満江 役 ◎◎◎◎（役者の名前）！

宮川 処刑番号4番。宮川 直美 役 △△△△（役者の名前）！

雨宮 処刑番号5番。雨宮 輝義 役 □□□□（役者の名前）！

ME カットアウト

全員 物語は今から終わる！

雨宮 全員整列！だらだらするな！

囚人たち、だらだらと小言等をいいながら箱の後ろに並ぶ

雨宮 ばんごう！

鈴木 い、いち！

松村 に！

青木 3！

宮川 4

雨宮 全員上げ！

囚人たち台に立ち首に縄をかける。

雨宮、四人の周りをぐるぐる回りながら話（なじ）るように喋る。

雨宮 ようやくこの時が来たな！このゴミムシども！今日は待ちに待った集団執行の日だ！

松村 知ってるよ。

雨宮 うるさい！！黙れ！この、蠅になれない蛆虫どもめ！！今かーらーお前らの死刑を

執行する！

松村 だから知ってるって。

雨宮、松村に詰め寄る。暫く睨みつけた後、もう一度歩き始める。

雨宮 だまれ！！ はあ…まったく。お前らみたいな薄汚い犯罪者が、なぜ今日までのうとうと生きて——

青木 お言葉ですが。私は薄汚くなんかありません。彼らと一緒にしないでください。（ほか三人を指さしながら、雨宮の正面に立つ）

松村 おい、あの正義漢ぶったやつ。俺らは薄汚いってよ（鈴木を肘でこつきながら）

鈴木 まあ、一応犯罪者ですし。

宮川 それどころか死刑囚ですもんね。

雨宮（青木に向かって）知るか！！（ほか三人に向かって）お前らも私語をするな！！
手にはスイッチを持っている。

雨宮 今すぐにでもこの執行ボタンを押して死刑を執行してやりたいところ。がだ、政府の寛大な意向でお前らに五分程の猶予を与えることとなった。「死刑囚にも人権を、最後に思い残す時間を。」だそうだ。

鈴木 猶予？

雨宮 数分間、覚悟を決める時間をやる！

松村 覚悟も何も——

雨宮 だまらっしゃい！！…お情けの数分間、後悔するなり懺悔するなり好きに使え！
何でそういうところばっか変えるんだよ死刑の方法は何時まで経っても首吊りのままのくせに。ていうか、じゃあなんで一回上らせたんだよ！

雨宮、目立たない位置に移動。

囚人たち、首から縄を外し、台から下りる。

鈴木（移動した雨宮を見ながら）急にそんなこと言われても…。

松村 後悔も何も、必要ならとつくに鉄格子のなかで済ましてるっての。

松村、雨宮にちよっかいをかけてみるが無視される。

青木 そもそも後悔やら懺悔やらの後ろめたい気持ち、一ミリとも持ち合わせていませんしね。

松村 おっ、気が合うな。俺もおんなじ。

青木 一緒にしないでください。

松村 一緒だって。俺とお前。共に死刑囚。OK？

青木 そうなった理由が違います！ 私は崇高な意思の元、国民を思って死刑へと至る罪を犯したのです。どうせ貴方みたいな人は、しょうもない理由で死刑になったんでしょう？一緒にしないでください。

松村 あ？ てめえ今なんつった？ 初対面のくせに適当言ってんじゃねえよ。

青木 この数分の会話だけで透けて見えるんですよ。貴方の野蠻さが。

松村 あ！！？

鈴木、会話にビビっている。

宮川 まあまあ。どうせ今から死ぬんですから、喧嘩なんかやめましょうよ。
松村 どうせ死ぬなら俺が殺す。

青木 やっぱり野蠻。

松村 あ？

宮川 だから！ どうせだつたらもつと穏やかに最期の時を過ごしなさいよ！ ね？

あ！ そうだ！ 皆さんが死刑になった理由を教えてくださいよ！ そうだ！ それがい

い！！

雨宮 は？

松村 なんてそんなこと――

宮川 2番さんだつて、殺すにしても誤解されたままじゃ嫌でしょ？

松村 いや、別にそんな――

宮川 それじゃあ番号順に！ はい、そのあなた！（傍でビビっていた鈴木を指して）

鈴木 え？ 僕ですか！？ 2番さんからの方がいいんじゃない？

宮川 いいからいいから。

宮川、鈴木を箱の上に立たせる

鈴木（もしくは鈴木のエピソード）のイメージカラーをバックにして鈴木にスポット。

鈴木以外の全員、鈴木を中心にV字型に並んでいる。

鈴木・松村・青木（宮川以外）のエピソードの度に話始めは同じ演出。

【鈴木の話】

鈴木

えー、どうも。処刑番号1番鈴木 優人です。会社員をしています。あ、いや…：して
いました…：。僕が死刑になった理由を言えはいんですよね。えーと、とても在り来
たりな理由なんですが、殺人です。そしてなぜ人を殺すに至ったか。これも在り来た
りなんです…：。復讐です…：。我が家は父子家庭で、一人娘がいます。これがまた
可愛い娘でしてね、「娘は子供の時が一番可愛い」なんてよく言いますが、僕の娘は、
小学生になっても中学生になっても、高校生になっても可愛いままで、反抗期なんて
全然やってこなくて、「絶対に嫁にやらん！」なんて、言い張って…：。そんな風に思
ってて、猫可愛がりしてたからですかね、あいつ変な男に引つかかっちゃって…：。お
金とられたり、殴られたり、知らない男たちに好き勝手にされたり…：。それで最終的
にはボロボロになっちゃって、心も、体も。娘が部屋から出てこなくなつてからよう
やく気付いたんですよ。僕。気づいたときにはもう、不甲斐なくて、情けなくて…：、…：
憎くて、憎くて憎くて。憎くて憎くて！

スポット、オフ。鈴木は思い出の中に沈み、追体験している。

鈴木

家にガレージに置いてたボールをひっ捕まえて

鈴木、箱の前方に降りてボールを取る仕草。
引きずるような足取りで4人のところに迂回しながら進む。
他四人、の瞬間は不良のグループとして演技する。

鈴木 娘の携帯でそいつのたまり場を見つけ出して、乗り込んで、下っ端みたいな奴の頭をつかんで何度も殴って、殴って、動かなくなると、そいつと話してた奴は喉を突き刺して、びくびくしてて、そんで逃げようとし奴は首を絞めて、ぼきって音がしたら動かなくなると、驚いて動けなくなってるリーダーみたいなのは、先の三人人なんか目じゃないくらいに絞めて、殴って、刺して、殴って刺して、殴って刺して殴って刺して――

鈴木が話し始めた時の照明&立ち位置に戻る。

鈴木 殺しました。(照れくさそうに)

完全明転。

鈴木 今考えたら、他にもっといい方法があったような気がします。なんかすみませんね。
こんな在り来たりでしょうもない話で…。

松村、泣いている。
雨宮、目立たない位置に移動。
それ以外は、各々、役にあった反応。

松村 うおお!! そんなことねえよ!! 鈴木さん、あんた立派だよ!! 自分のガキのために命かけて、そんなのなかなかできねえよ!! うおおん!!

宮川 素晴らしい。本当に素晴らしい。

鈴木 そ、そんなに、言うほどですかね?

松村 いうほどだよ!! (鈴木に縋りつく)

鈴木 うわ、近いですよ!?

青木 ……(松村を見て何やら考えている)。

宮川 おや、どうかしましたか、青木さん?

青木 ……いえ、別に。

宮川 あ、そう…。じゃあ、次は松村さん。

松村 うわーんーん!! (まだ鈴木に抱き着いている)

鈴木 松村さん!! 次あなたの番ですよ!!

松村 うわーんーん?え?

鈴木 あなたのはばんです! (松村の箱の前まで押す)

松村 あ? ああ。(涙声で)

【松村の話】

松村 (鼻を吸る) うえ、ええ。う、うう……ぐすつ、ぐすつ……。

鈴木 松村さん！泣き止んでください！

松村 ぐすつ、ぐす。……分かった。

松村、大きく鼻を吸った後に袖で目をこする。

松村 えー、処刑番号2番 松村 忠だ。ここに入る前は——あ……別にいいか、隠さなくても——ヤクザをやってる。ああ、別にヤクザだからってそこまでアコギなことはやってねえぞ？ ちとらチャカとみかじめだけで食ってる善良で真つ当なヤクザだ。義理と任侠を柱とする正統派のな。……そんな義理と任侠の世界だから、偶に良いこともしたりする。親に借金を押し付けられたガキを助けたりとかな。まあ、何を隠そうそのガキがってのが俺だ。またこれが聞くも涙話すも涙の話でな？ ひとたび聞きやあ、こりやあもう涙がちよちよぎれてとまらねえような話d——

青木 長い、簡潔に。

松村 ちつ——って話をしてえところだが、その物語の妙ってやつを分かってねえ若造がうるせえから省かせてもらう。すまねえな。

青木 はやく！

宮川 まあまあ、三番さん落ち着いて。

松村 わかったわかったよ。俺が死刑になった理由だろ？ 別に大したことねえぞ？ 鈴木とおんなじ、殺人だ。ってなると適当な理由で色を付けねえといけねえわけだが、そつちも特に珍らしいもんでもねえ。ヤクザによくある武力抗争ってやつだ。日ごろから敵対してたやつらが汚ねえ商売やってやがったんで、いよいよ我慢ならねえつてもんで喧嘩吹っ掛けてやった。

青木 汚い商売とは？

松村 ウリとヤクだ。

青木 ウリと……ヤク……？

宮川 売春と麻薬のことです

鈴木 売春……それは、駄目ですな

松村 だろ？ 俺たちもそんな下衆な奴らは放ってはおけねえってことでいろいろと準備を進めていたんだが、向こうも長年こつちとタメ張ってただけに一筋縄じゃいかねえやつらでよ、いち早く俺たちの動きに気付いて牽制しかけてきたのよ。

宮川 牽制とは？

松村 あいつら、俺たちの準備が整う前にこつちのシマを食っちまおうとか考えたらしくてな、因縁吹っ掛けてきやがった。チャカ持った鉄砲玉を四人もよこしやがって——

スポット、オフ。青木の記憶の追体験が始まる。

他の四人は鉄砲玉を演じる。

松村、台から跳ね下りて銃を構える仕草をする。

松村 四人いるからってなにも四人全員で一気にかかってくるってわけじゃねえ。固まって攻め込んでも一網打尽にされて終わりだからな。奴らはバラバラに飛び掛かってくる。一人目は多分二十にもなってねえガキだった。出世させてやるとでも言われたんだろ。うな、生き生きとした顔してやがった。かわいそうに。そいつの頭をチャカで一発。

二人目と三人目はそれなりに年をくったやつだ。一人目がやられたからだろうな、やけに警戒してやがったから、足を撃って動けなくした後に心臓を打ち抜いてやった。そんで最後の一人だ。こいつがなかなかの曲者でな、銃口から弾道を読んで弾を避けやがんだ。まあ結局そいつも俺の手にかかれれば一捻りだったんだがな。手元にある銃弾を全部撃っても倒しきれなかったから、しょうがなく手元にあったドスで腹をぶっ刺してやった。

松村が話し始めた時の照明&立ち位置に戻る

青木

：：：貴方も、貴方なりに、成したいことをなしたのですね。手段はどうであれ。

松村

ま、その後に殺人で捕まっちゃまったけどな。でも今頃うちの組は敵対組織をぶっ殺して勢力を拡大してると思うぜ。子分を四人も殺したんだ。士気はがた落ちだろうしな。

宮川

珍しい話ではねえな

鈴木

：

松村

あー、引いただろ？ そりゃそうだ。ヤクザの血生臭い話なんて。聞いてて気持ちのいい話じゃねえしな。

宮川

まあ、普通に生きていて耳にする話ではありませんものね

松村

：：：：か——

鈴木

あ？

松村

かっこいい！

鈴木

えー！！？

松村

かっこいい！ かっこいいですよー！！ なんか、こう……vシネの世界みたいな！ 北野武とか三池崇史みたいなの！？

松村

お、おう……

宮川

凄いやつですね。

鈴木

僕こんな感じで弱々しい見かけしてるでしょ？ だから昔から漢字の『漢』って書く方の男に憧れてて！ ヤクザとかザ・漢って感じで、あー！！ かっこいいな！ 憧れるな！！ あ、サインとか貰っていいですか？

松村

ペンと紙がねえよ！

宮川

というか、北野武に三池崇史って……随分古い作品が好きなんですな。大体百年くらい前の人でしたっけ？

鈴木

おお！！ ご存知ですか！！

宮川

ええ、勿論。

鈴木

何の作品が好きですか！？ 定番の「アウトレイジ」ですか！？ 不朽の名作の「牛頭」ですか！？

宮川

んー、「アキレスと亀」ですかね

鈴木

「アキレスと亀」！ これまた通な作品を！ いやはやわかってら——

雨宮、鈴木の前まで来てから鈴木の前を叩く。少しだけ微笑んでから頷き、もといいた場所に戻る。戻りしなに鈴木の手を引っ掴んで強引に握手し、「わかるぞ」という顔をする。

松村 ……………なに!!?
鈴木 ……あの執行人の人も好きだったんですかね? vシネ。(執行人の前まで行って) vシ
ネ、お好きなんですか?

雨宮、無表情でゆっくり頷く。

宮川 あ、そうみたいです。

松村 意外!

雨宮 後ごふーん!!

青木 ……無かったことにする気だ。

宮川 素に戻って恥ずかしくなちやっただんですかね。

鈴木 ……てか、いま、あと五分って言いました!?

松村 やべえ! 時間ねえぞ! あー、あと残ってるのは誰だ!?

鈴木 3番さんと4番さんです!

宮川 3番さん、早く。

青木 は、はい。

鈴木 さ、早く!

【青木の話】

青木 佇まいを直して真剣な顔をする。

青木 処刑番号3番。青木 満江です。活動家をしています。

松村 捕まっちゃったんだからもう――

青木 活動家に廃業はありません! 今こうして死んでいくことですら活動に他ならないの
です! 苦しむ国民を尻目に甘い汁を啜る汚らしい政治家たちを我々国民たちのちか

松村 わーかった! わかったから! あれだろ? その感じだったら死刑になるのも国家反
逆罪とかその辺だろ?

青木 「名誉ある」国家反逆罪です。国民の内なる声を代弁したのです! まあ、そもそも?
罪である事自体がおかしいんですがね。(虚勢を張るように)

松村 そんなこと言ったら俺だって、鈴木だって同じだよ!
青木 ……確かにその通りです。鈴木さんと松村さんの話を聞いて私も思いました。ここに
いるあなた達や私の様に、裁かれる謂れない人間いるのかもしれない。ただ一面的
な考えで杓子定規に当て嵌められてしまっているのではないかと! (だんだんと演説
つぼく) きつと4番の貴方もそうなんでしょう? (自虐つぼく)

宮川 それは私の番になってからのお楽しみ。

松村 何言ってるんだか分かんねえ。(青木に対して)

鈴木 僕たちのことを見直したってことですよ。

松村 なるほど。やっとなかったか!! (青木に向かって)

青木 (無視)。私は――

松村 おい!!

青木 —— こうやって捕まる前、汚い政治家たちをその座から引きずり落とすために、様々な場所で演説を行っていました。

スポットオフ。

青木に記憶の追体験が始まる。

青木は台に立ったまま。

他四人は演説を聞く群衆（三人）隠れてみている警官（一人へ雨宮）

青木 私たちは、不当に搾取されている！ これを聞く貴賤群衆の老若男女たち！ 今こそ立ち上がるのです！

四人、青木の後ろに立つ。支援者となったのだ。
青木、メガホンを持つ仕草。

青木 皆様！ あと少しです！ あと少しであの男を打ち倒せます！ 貴方も政治家の端くれなら！ 国のためを思う公僕であるのならば！ 自らの犯した過ちを認め、その職を辞しなさい！ 皆さん今こそ！ この国の現状を打ち倒すのです！

警官（雨宮）「打ち倒す」という言葉に反応して青木につかみかかる。

青木 は、放しなさい！！ 何をされるのですか！ や、やめなさい。皆さん、逃げてください！ 早く、私がいなくても皆さんならでき——

松村が話し始めた時の照明&立ち位置に戻る

青木 「打ち倒す」という言葉に反応したのでしよう。きっとあの警官は、私が熱くなってぼろを出すのを待っていたのです。私はそのまま捕まって程なくして、国家反逆罪で死刑の判決を受けました。：今となって考えてみれば、あの政治家も何かしらの理由があつて、悪事に手を染めていたのかもしれない。

鈴木 落ち込まないでください！！ 青木さんは立派なことをしました。何も間違つてなんかいません！！

青木 そんな確証どこにもありませんよ。それに、私は革命の名のもとに、とても大きな犠牲を払いました。

鈴木 犠牲？

青木 私、子供がいたんですよ。生きていれば今頃中学生の。

鈴木 生きていけば……

青木 暑い暑いって泣いてた子供が、帰ってきたら冷たくなつてた。私が殺したようなものです。

鈴木 ：

青木 馬鹿みたいですよ。我が子を犠牲にしてまで成しえようとしたことが全部、無駄だったんですから。

鈴木 そ、そんなことありませんよ！

宮川 本人がそう思ってる以上、もうどうしようもないと思いますよ。

松村 ……

鈴木 そんな…。ほら、松村さんからもなにか――

松村 ――なあ。

青木 なんですか？

松村 お前が言ってた汚職政治家って、金田悪蔵のことか？

青木 よくご存じで。

松村 安心しろ。そいつは悪人だ。

青木 気休めはよしてください。

松村 気休めじゃねえって。

青木 なんでそんなことがわかるんですか！

松村 だってそいつうちの敵対組織とずっぴだったもん！

宮川 なんと

青木 ……え？

松村 だーかーら、金田がしてた悪事には、全部バックにうちの敵対組織がいたの！ ついで

に言うと、金田の野郎は欲に参れた最低人間でした！ お前の言った通り！

鈴木 なんでそんなこと知ってるんですか！？

松村 そりゃあ、今からやろうってところの周りくらい調べるさ。

鈴木 以外に慎重派なんですわね。

松村 これからはインテリヤクザの時代だからな。情報戦もできねえと。

青木 それじゃあ、私は……

宮川 ええ、貴方は何も間違えちゃいなかったみたいですね

宮川、青木の肩に手を置く。

松村 お前が命を懸けてまでやったことは、辛うじて正しかったってこった。

鈴木 よかったじゃないですか！！ 青木さん。

青木 ……ええ、何だか報われます。私も、あの子も。

鈴木、青木、松村、穏やかな顔

宮川だけ、表情からは何も察せられない。

松村 今頃は俺んどこにバックを潰されちまって、金田の野郎も失墜してんだろ。俺と俺の

組に感謝しろよな

鈴木 急に凶々しい……

青木 ふふっ

宮川 それじゃあ、良い雰囲気になったところで、次は私の番で――

雨宮 時間しゅうりよーう！！！！

雨宮、中心までやってくる。

鈴木 ええ！？ ちょっと待ってくださいよ！ まだ四番さんが残ってるじゃないですか！

雨宮 そんなもん知らん！ 制限時間内に終わらせられなかったお前らが悪い！

松村 それはそうだけども？ なんかこう、気持ち悪いじゃねえか。死んでも死にきれねえっ
ていうか？

雨宮 それも知ったことではない！！ というか！ さっきのお前らの話を聞くに！ 別に悔
いはないだろう！

青木 やっぱり聞いててたんですね。

雨宮 どうせこの後も少しは時間がありますよね？ 首を吊るまでに。ならその間に話しますよ。
それは好きにしろ！！ さあお前ら縄をかけろ！！

死刑囚四人、台に乗り首に縄をかける。

今回は宮川を中心に立つ。

五人にスポットが当たる。

【宮川の話】

後ろで雨宮が縄を外れないように一人ずつチェックしている。

宮川 まず最初に、青木さん。私から貴方に一つ謝っておきたいことがあります。

青木 なんですか？

宮川 先程あなたは私のことを「裁かれる謂れない人間」とおっしゃってくださいました
ね。

青木 ……はい。

宮川 申し訳ありませんがそれは間違いです。私は先程話に出た金田の様に、欲に溺れて罪
を犯した人間なのです。

鈴木 それも理由があつてのことなんでしょ？

宮川 いいえ。私は、何の深い理由もなく、様々な悪事を働いてきました。いくつかお聞か
せしましょうか？

鈴木 ……はい。

雨宮、鈴木、鈴木の縄をチェックし、後ろ手にして結ぶ。

宮川、心底楽しそうな、意地悪な顔。

宮川 そうですね：ああそうだ！ 人身売買とか、やりましたよ！ 身寄りのない年ごろの娘
を。夜の繁華街を一人とぼとぼ歩いてたんでね。たしか、「父が犯罪者になってお先真
つ暗だ」って言ってましたね。

鈴木 え？

宮川 「父以外に身寄りもないからほかの家族にも頼れないし、未成年だから働き口もない」
とも。ね？ かっこうの的でしょ？ しかもなんとその子頭も悪いんですよ？ 保険証と
かもすぐに渡しちゃって。よほど箱入りで育ったんでしょ？

鈴木 ちよ、ちよっとまっつてくださいよ？ え？ えっと、どういうことですか？

宮川 だから、人身売買の話ですよ。ああそういえば、あの子の苗字も鈴木とか言いました
ね。あららららら。すごい偶然だ。

鈴木 は？ いや、それはつまりえっと——

雨宮、松村の縄を確認する。

宮川 ほーかーにーはー、ヤクザと手を組んだり？ どこかの地区の二大ヤクザが抗争起こして、勝った方も壊滅状態だと耳にしたので、別の地区のヤクザと一緒に攻めこんじゃいました（照れくさそうに）。

松村 あ？

宮川 あ、もちろん見ての通り私には腕つぶしなどありませんから、頭脳戦での手助けのみでしたよ？ これからの時代はインテリヤクザの時代らしいですからね。聞くところによると。・・・あれ？どこで聞いたんですって？

宮川、松村を気にも留めず話続ける。

宮川

どうやらそこって今時珍しい義理とか人情を重んじるところらしくてですね。これがまた笑っちゃうんですけど、下端を人質に銃で脅したら、皆動けなくなっちゃって。

松村 どういうことだよ・・・

宮川 みんな自分が撃たれるってのに全然反撃をしないんですよ。

松村 おい！ どういうことだって聞いてんだよ！ 答えるよ、お——

雨宮 大人しくしろ！！ 動くな！！

雨宮、松村に猿轡をつけ後ろ手にして結ぶ。

松村、猿轡を食い千切らんばかりの勢いで呻いている

宮川 あららららららら、

雨宮、青木の縄を確認し、後ろ手にして結ぶ。

青木、宮川を睨んでいる。

宮川 松村さん、なぜかご立腹のようで。・・・そういうえば、これは私のした悪事ではないのですが。

青木 なんですか？

宮川 私が連れてきたヤクザさんね、最近友達ができたらしいですよ。名前は確か・・・、金田さんでしたっけ

青木 最低。

雨宮、宮川の縄を確認し、後ろ手にして結ぶ。

宮川 ああ、そうだそうだ。言い忘れてた！ 私、囚人番号4番の宮川直美と申します。以後お見知り置きを。

雨宮 よし！ 全員の執行準備が整った！！ これより死刑を執行する！

鈴木は何かぶつぶつ言っている。

松村は必死に何か呻いている。

青木は宮川を強く睨んでいる。

宮川はにやにやしている。

宮川　まさか皆さん人を殺しておきながら、安らかに死ねると思いましたが？

雨宮　処刑番号1！鈴木優人！罪状、殺人罪！！

鈴木は弱々しく何かつぶやきながら吊られた。

雨宮　処刑番号2！松村忠！罪状、殺人罪！！

松村は野蠻に呻きながら吊られた。

雨宮　処刑番号3番！青木満江！罪状、国家反逆罪！！

青木は正義感ぶって睨みながら吊られた。

最後に、にやにやしている宮川だけが残った。

雨宮　処刑番号4番！宮川直美！罪状——

宮川はにやにやしている。

雨宮　詐欺罪！！！！

宮川はにやにや笑いながら吊られた。

【吊られ笑い 完】

話の軸がブレない限りは台詞の変更は構いません。

立ち位置等の脚本内の指示も必要に応じて変えて結構です。

宮川は適当ぶっこいてます。行動の理由はアルベルトシュタイナーの都市伝説のような感じですよ。

恐らく雨宮が一番難しい役だと思われます。頑張ってください。

開始時点では、死刑囚全員が自分の「死」にある程度誇りを持っていました。

「宮川が最後まで詐欺師として死ぬ」というオチさえ守っていただければ内容の変更は大小に関わらず問題ありません。

基本全員性別の改変はしてもらって結構です。